

令和 5 年度 墨田区立第四吾孺小学校 経営報告書

校長名 清水 雅也

学 校 目 標	◇健康で心豊かな子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子	◇よく考え進んで実行する子 ◇礼儀正しい子
目 指 す 学 校 像	◇学ぶ力が伸びる学校	◇連携・発信する学校 ◇安全・安心な学校
目 指 す 子 供 像	◇元気でいきいきと学び、運動する子供 ◇協し合い、認め・高め合う、共生社会の担い手となる子供	◇地域・社会に貢献する礼儀正しい子供
目 指 す 教 師 像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師	◇「褒める・認める・きちんと諭す」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○成果 △改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	①確かな学力を向上させるために、意図的・計画的な取組を行う。	A	B	○研修成果の共有化、地域体験学習（地域で学ぶ・地域から学ぶ等）の推進等、新たな学習スタイルを積極的導入した。 ○「話し合い活動、意見集約などの場」を中心に、タブレットの活用が進んだ。 ○教育研究所提供の各教材を活用して確かな学力の定着に取り組み、区学力調査では本年度目標を達成した。 △来年度は、「墨田区 特色ある学校づくり研究校」の指定を受け、地域教材の開発に取り組む。 △ICT 担当者のリーダーシップのもと研修を推進し、より効果的なタブレット活用法を身に付ける。 △各教員が、受講した研修内容を全教員に伝達する機会をさらに増やす。 △タブレットの活用が進むにつれて、図書館利用頻度が下がる傾向がある。調べ学習を図書室で行い、タブレットと図書の目的に応じた併用を進めていく。	A	B
	②特別な支援を要する児童に対して、組織的な支援を行う。	A	A	○特別支援教育コーディネーターを中心とした委員会において、個々の状況を分析し、全教員が共通理解したうえで、最適な支援策を検討・実施した。 ○学習支援員を適切に配置し、素早くきめ細かな支援を行った。 ○支援が困難と判断された場合は、専門機関へ協力要請し、個別対応を進めた。	A	A

様式 4

			<p>○特別支援学級児童が通常学級の授業を受ける「交流学習」を積極的に行った。また、通常学級児童が特別支援学級授業を体験する交流も、1例実施した。</p> <p>○△4年生において、特別支援学級や通級に対する理解を深める「障害理解授業」を実施した。今後も、対象学年を拡大する等、改善・継続していく。</p> <p>△ 医療的ケアが必要な児童への支援については、学校・保護者・区教委の意向を調整する機会を増やし、実現可能な「合理的配慮」を検討・実施していく。</p>		
③社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育を行う。	A	A	<p>○商店街・スーパーマーケットや町工場の見学、保護者・地域人材を講師に招聘した学習（防災学習、キャリア教育等）を実施、「地域で学ぶ・地域から学ぶ」学習を進めた。</p> <p>○本年度から、千葉大学（5年生：造形活動）・IU大学（6年生：キャリア教育）との連携授業に取り組んだ。</p> <p>△大学連携・キャリア教育が、文花中学校地区全体の取り組みに発展するよう、関係機関と連絡・調整を進める。</p>	A	B
④教員の指導力・授業力を高めるための組織的な取組を行う。	A	B	<p>○校内研究は国語科（言語活動の充実）とし、年間3回の校内研究授業（下学年・上学年・特別支援学級）、講演会・協議会を実施した。</p> <p>○教職経験年数を勘案した組織づくりを行い、OJTを推進した。</p> <p>○管理職による授業観察・事後指導を年3回行った。</p> <p>△来年度は、「墨田区 特色ある学校づくり研究校」の指定を受け、地域教材の開発に取り組む。</p>	A	A
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>・かけ算九九をきちんと習得していないと、その後の算数、中学校からの数学においてつまずきやすいので、PTAや地域の人に協力を依頼するとよい。</p> <p>・ICT機器の活用は必要だが、頼りすぎてしまうのは問題かと思う。保護者への連絡等には良いと思う。視力低下も心配である。</p> <p>・今後、保護者による「読み聞かせ」の復活を望む。</p> <p>・大人もネットやスマホで情報を得て、分かったつもりになりやすい時代。ゆったりとした読書の重要性はより高まっているように感じる。</p> <p>・国語科の文章読解や言語表現などは、すべての教科において大切。文章（本）を読んだり書いたり（作文）が好きな児童を育成してほしい。</p> <p>・ひきふね図書館の電子書籍サービスも有効活用していただけたらと思う。</p> <p>・全学級に、支援員・介助員がもう少し増えたらベストである。</p> <p>・学校の取組が充実することによって、支援やケアを必要とする児童の入学が増える。区の支援が追い付いていけるのかが気になる。</p> <p>・特別支援級と通常級の交流が互いにとても大切な経験になっている。四吾嬢小の良い点の一つは、インクルーシブ教育である。様々な人と関わり合い交流することが、社会人として</p>				

様式 4

		<p>の第一歩となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが落ち着いてから、見学や体験学習を積極的に設定している。子供たちの選択の幅が広がって、とてもありがたい。</li> <li>・ゲストティーチャーの出前授業は、「大人の事情」で決定される場合もある。真に児童のためになる授業を実施していただきたい。</li> </ul>
--	--	--

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○成果 △改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	①いじめや不登校予防・解決のための組織的な取組を行う。	A	B	<p>○児童・保護者の悩みごとについて教員やSC、SSWが丁寧に対応した。</p> <p>○各委員会でいじめや不登校実態を分析し、全教員が個々の児童の状況を共通理解し、組織的に対応した。</p> <p>○△支援が困難と判断された場合は、専門機関へ協力要請し、個別対応を進めた。しかし、家庭に課題がある場合の対応には限界があり、苦慮している。</p>	A	A
	②基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育の充実を図る。	A	B	<p>○規則正しい生活習慣の定着を図るための「生活リズムチェック週間」を実施した。</p> <p>○児童代表委員会、文花中学校生徒による「あいさつ運動」を実施した。</p> <p>○新入生を対象に、「墨田区でイチバンカッコイイ小学生になる作戦」を展開した。</p> <p>△今後も、児童の実態を分析し、学校のきまりを毎年見直していく。</p> <p>△課題のある児童に対しては家庭との連携を、課題のある家庭に対しては関係機関との連携を進めていく。</p>	A	B
	③児童の健康・安全を確保するための各種取組を行う。	A	A	<p>○各種訓練（災害対応、引き取り、集団下校、不審者対応等）、養護教諭や学校医による保健指導、食育指導等、健康 安全に関する指導を計画的に実施した。</p> <p>○食物アレルギー事故防止への対応（保護者との面談、アレルギー事故対応訓練等）を徹底した。事故発生はゼロであった。</p>	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々、休む子はいても移動教室等の行事には全員参加で素晴らしい。</li> <li>・明確ないじめだけでなく、その前段階の状況も含め、先生方がそれをオープンにしつつ寄り添う姿勢はとても良い。</li> <li>・学校内だけでは把握できないいじめや不登校は、児童の家庭の状況や生活環境を把握することが大切である。地域でも協力していきたい。</li> <li>・家庭で身に付けるべき基本的な生活・社会習慣を、学校で指導せねばならない時代になっ</li> </ul>				

様式 4

		<p>てしまい、教師の負担が増えて大変だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開で、教員の積極的な取組姿勢が伝わってきた。</li> <li>・愛されているという思いをもてない子供は、人を愛そう、大切にしようという思いにはなれない。引き続き、良好な人間関係作りにご尽力願いたい。</li> <li>・事故やケガへの対応が、迅速かつ丁寧で素晴らしかった。</li> </ul>
--	--	--

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・ 改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	①経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営の徹底を図る。	A	A	<p>○教員は、校長の経営理念「ほめる・みとめる・きちんと論ず、意欲とケジメのある学校づくり」のもと、児童の取り組み姿勢を積極的に評価するよう心がけている。</p> <p>○教員の力量・経験を勘案して役割を割り振る等、よりよい協働体制（ともに働き、ともに学ぶ）を整えた。</p> <p>△教員育成計画に基づき、学校運営に関わる職務を段階的に与え、経営参画意識をより一層高めていく。</p>	A	A
	②適切な教育目標・学校経営計画の設定および評価を実施する。	A	B	<p>○△経営計画、評価は、学校経営計画に即した評価項目となるよう改善を進めた。本年度の結果をもとに、経営計画や評価項目の見直しをさらに図っていく。</p>	A	A
	③教育環境・施設設備等の整備状況の把握と改善を行う。	A	B	<p>○毎月、施設設備の安全点検を行い、改善が必要な箇所については迅速に対応した。</p> <p>○消防署、警察署と連携した各種訓練を実施した。</p> <p>○管理職が、地域防災訓練や避難所運営会議などに参加し、全町会、区役所担当者と災害時の協力態勢・事項について確認・整備し、有事に備えている。</p> <p>△修繕・改修が必要な施設設備については、管理職が状況や理由を区役所担当者に直接説明・交渉する等、迅速な対応を引き続き要請していく。</p>	A	B
	④職員の心身の健康を守る労働環境づくりを推進する。	A	B	<p>○月40時間以上の超過勤務者は「1/19名」。</p> <p>○育休取得者2名。メンタル不調による休職者ゼロ。</p> <p>△副校長の記録・統計をもとに、対象教員への情報提供と支援・指導を行っていく。</p>	A	B
	⑤学校に関する情報を積極的に発信する取組を行う。	A	B	<p>○各種たよりや学校に関する情報は、紙媒体、電子媒体を使い分けながら発信している。</p> <p>○11月より、保護者以外の方々にも学校の取組・児童の様子をお伝えする「学校の出来事」の発信を開始した。</p> <p>△情報発信に際しては、個人情報（写真、氏名等）に配慮しながら慎重に進めていく。</p>	A	A

様式 4

	<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールやトイレに加え、児童の安全のためにさらなる施設設備の整備が必要である。</li> <li>・先生方の負担をより減らすためにも、1・2年の各クラスには副担任、特別支援学級にはより手厚い人員配置が必要と考える。</li> <li>・児童のために、教員が負担している時間を少しでも減らせるなら、PTA や地域の人達に協力してもらうのもひとつの方法だと考える。</li> <li>・情報発信は素晴らしいが、担当教員の過度な負担とならないことを望む。情報発信担当の人材を別途学校に派遣することが必要である。</li> <li>・HP の更新を多くしていただきありがたい。せつかくなので、保護者・地域に一層の周知をしていただけたらと思う。</li> <li>・教員にとって過負担になりかねない学校ホームページの更新は、本当に必要なのか。もっと簡易な情報発信の方法を、区全体で検討する必要がある。</li> </ul>
--	--	---

目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	①保護者や地域の理解・協力を得た教育活動を推進する。	A	B	○本年度も、学校行事の運営に際しては、PTA をはじめ、保護者有志の会（オヤジの会、ニコの会）、各町会の皆様から、多大なるご協力をいただいた。 △PTA や地域行事の実施については、施設・物品の貸し出しから運営のアドバイスまで、できる限りの支援をさせていただく。	A	A
	②文花中地区における幼保小中一貫教育の推進を図る。	A	A	○本年度より、年間3回の研究授業公開が始まり、本校でも10月に研究授業公開を実施した。授業を相互参観することにより、幼保小中相互の特性（子供の発達段階、指導方法の差異など）の理解が促進した。 △子供たちが安心して幼保小中と進学できるよう、真に必要な交流活動に取り組んでいく。	A	A
	③「地域を学ぶ・地域で学ぶ教育」の推進を図る。	—	—	☆「各教科指導」の「③進路指導・キャリア教育」項目に同じ。	—	—
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントが多い中、校長先生や副校長が先頭になって地域の活動にも参加していただいております。ありがとうございます。</li> <li>・PTA 行事、地域行事への学校の協力体制は大変素晴らしく、日頃より感謝している。</li> </ul>				

## 様式 4

### 2 令和5年度学校評価のまとめ

#### 【学校運営連絡協議会委員 自由意見欄より】

- ・四吾小では大変よい環境で子供を育てていただいた。卒業後にうまく対応していけるか少々心配な面もある。
- ・細やかな情報発信・提供に感謝。新たな ICT システムに適応、発信する教員の負担が大きすぎないか心配である。
- ・教員の体と心を守るためにも、労働条件（時間外労働、給与も含め）の向上を望む。また、教員数を増やすなどの改善も必要である。
- ・学校全体で、PTA・保護者、地域と連携する雰囲気を作ることで、関係者が一丸となれていると思う。
- ・児童館は遊びを軸としながら健全育成を進めている。今後も地域の施設として学校と密接に連携し、子供たちを見守っていく。
- ・学校が基本的な生活・社会習慣までも学ばせる場となったことで、教職員の負担が増していることが心配である。
- ・家庭の事情（経済力、家族構成等）で放課後の学ぶ機会が不十分な児童に対して、PTA や地域が、学習面での協力ができたら考えている。
- ・文花中学校区の連携を図るために「コミュニティースクール（中学校単位で、文科省モデル）」に移行する時期にきていると思う。ただし、体制・組織づくり等に克服すべき課題が残る。

#### 【学校より】

- ・学校・地域図書館の利活用に課題あり。調べ学習を学校図書館で行う等、利用時間の意図的増加およびタブレットと図書の特性を 共用化を進める。
  - ・地域図書館の利活用（団体貸出、見学等）に加え、地域書店との交流等、新たな取組にも挑戦する。
  - ・地域教材の開発、単元化を開始した。次年度は、校内全体で開発・研究を進める。
  - ・本年度、障害理解教育の授業を試行した。次年度は対象学年を拡大し、障害理解の促進に努める。
- ★学校運営連絡協議会、保護者からは、肯定的な評価をいただいた。しかし、「読書・図書館利用」に課題が残るとの指摘もあった。これらの意見を真摯に受け止め、改善に取り組んでいく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立 第四吾嬬小学校 校長 清水 雅也

公印